

## 2025年1月異業種交流会

開催日：2025年1月16日（木） 18:00～20:00

会場：かぶらや総本店

参加者：清水堪蔵(49C)、木村謙之(60W)、鶴岡徹雄(44M)、池原豊治(48C)  
木村一哉(58L)、木村香代子(57W)、二宗光文(46M)

合計7名

2025年になって暖かいと思っていたら、今日から最高気温も10℃を切って、冬の寒さを感じている。

そういう中でいつものメンバーが集まって新年早々の異業種交流会となった。今回も岡山県の津山から池原さんが参加してくれた。池原さんはこの会と、会の前（または後）に開催される山登り参加を兼ねて名古屋に来ていた。今回もこの日の昼間に岐阜の金華山の登山が設定されていて、池原さんと清水さんはそれを終わっての参加である。

池原さんは津山で、俳句や短歌を詠んでいて、毎回地方紙に投稿して度々賞をいただいている。今回も町内の大会において入賞した賞状を披露してくれた。また山陽新聞に掲載された短歌は、

「心病みベンチに坐せばもの言はぬ

木々はみな吾に語り出したり」

そこから始まり、短歌と俳句の違いなどの議論が始まった。31音の短歌は自分の心の内を詠みこむ。俳句は17音で映像や状況を描写する。木曜日のテレビで「プレバト」を見ていると勉強になると会話も弾んだ。



ちょうど正月であり、年賀状の話題も出た。年々「年賀状を今年限りで失礼する」という人が多い。特に今回は郵便料金の値上げも伴ってこれを機会に区切りを付ける人が目立った。しかしながらやはり特定の人には引き続いて出したいし、印刷だけでなく一言手書きの文字を付けくわえることも必要であるという意見もあった。



やはりメールでとは一つ違った思いや価値をこの年賀はがきに見出している人もいます。

この時期、インフルエンザやコロナに感染した人が増えていて、これらに罹ってひどい目にあつたという声も聞かれた。ワクチンや予防注射を打っても日常生活に気を付け、体力をしっかりとつけて乗り切りたいものである。

ビールや熱燗がどんどん進む中で、2時間も過ぎ、きちんとお開きにして帰路に就いた。

(文責 二宗)